

天地

ネットワーク テーブル 448号

発行：天地シニアネットワーク：2017・5・15

TENTĪ TODAY			1
会員の広場	＜赤松小三郎ともう一つの明治維新＞ ＜動画＞コーナー		2
連載作品			4
講演録	『M.K ガンジー』（3） J. ネルーについて：	佐川 雄一	4
随 想	天のわざ、地のほまれ—地球を測れ、宇宙をはかれ— 25. エネルギーとは	伊那 闊歩	6
旅行記	そうだ京へ行こう・古刹の花物語（22） ＜洛中の洛外1・吉野と南北朝（その3）＞	大竹 漢洲	10
解 説	般若心経読本（9）	藤田 克明	12
講演会	「奈良興福寺文化講座」「新三木会」「すどう美術館」		16
事務局			17

TENTĪ TODAY

フランス、韓国と注目の選挙が終わり、その結果に安堵して、各国の株価が大幅に上昇しました。ここで新しくFBI長官解任問題が米国で浮上しましたが、米国の景気は良く、ドル高・円安が予想されるところから、株式市場がさらに上昇と予想され、この機会に憲法改正、テロ対策法など、問題案件を一気に片付けようと安倍政権が動き出したように見えます。

高齢とともに、甲高い早口の言葉についていくのが難しくなったせいか、チャンネルを民放からNHKに変えることが多い。安倍首相の発言、外国、での、あるいは対外向けの時は原稿があるせいでしょうか、ゆっくりで理解しやすいのですが、国会での答弁は、早口で、甲高く、分かりにくいことが多い。ゆっくりお願いしたいものです。それにしても、＜読売新聞を読んで下さい＞という発言には、びっくり。＜読売新聞＞を取ってない人は、どうなるのでしょうか。

バランスのとれた政治家が一番安心です。

日本橋の丸善に行きましたが、書籍のコーナーが小さくなったようで、探していた本が見つかりませんでした。それではと八重洲のブックセンターに行ってみましたが、蔵書は豊富で、探していた本もありました。＜本離れ＞＜活字離れ＞の世の中の流れ、本を手にももたなくなってきたようです。

京都の縄手通り四条上ルにあるロシアレストラン「キエフ」、経営者の加藤さんが大学の同期生ということもあり、京都でロシア料理というのも変なのですが、関西方面に行くときはなるべく寄ることにしています。前回寄った時に、明治維新の話をしたのを覚えていて、加藤さんの友人の友人が最近刊行した「赤松小三郎ともう一つの明治維新」という本と、友人に宛てた感想文を送ってくれました。主要部分を「会員の広場」に掲載してあります。

会員の広場

「赤松小三郎ともう一つの明治維新」(関 良基著・(株)作品社・2016年12月出版)を送られて、その感想 (加藤幹夫)

赤松小三郎は著者も述べているように、上田の歴史と風土に強く影響を受けている。この時代には真田家は松代に移封されていて、徳川直系の松平氏が統治していたことを知りました。幕府の老中まで務めた殿様の松平忠固のことも初めて知りました。幕末の最も優れた兵法学者の佐久間象山が松代藩の出身で小太郎とも接点があったことを知りました。私にはよく分かりませんが地理的には上田は交通の要衝のような場所にあつて、色々な情報が交差する位置にあり小三郎のような進取の精神を培う場所だったのかもしれないね。

長崎、江戸、京都の地を遍歴しながら、肅学、英学に接し、語学力を高め、文献の翻訳、出版と研修所での教師をする訳ですが、我々の想像をはるかに超える卓越した知性・知力の持ち主だったようですね。

彼がまとめた建白書は見事という他ありません。民衆による普通選挙で選ばれた議会(議政局)を国権の最上位に位置付けている制度を示唆していることは驚きですね。それに加えて、官僚の公選制や軍備、さらには金融制度にまで彼の思索が広がっていることに感心します。アメリカの大統領制も比較検討していることも彼の視野の広さを感じます。

最も徹底した民主主義制度を提案したと言われるパリコンミュンに匹敵するような考えで、限られた情報しか入らない極東の小国で、僅か35才の青年がここに到達していることをどう見るべきなのでしょうかね。パリコンミュンは1871年ですからほぼ同時代ですね。

小三郎が指導した薩摩藩の内輪もめに巻き込まれて36歳で中村半沢郎によって殺害されるのですが、日本にとってこの最高の知性を失ったことの損失がいかに大きかったかと思わざるを得ません。

著者は小三郎を通して明治維新史の見直しを試みています。著者も指摘しているように私も司馬史観の影響を強く受けてきたことを改めて感じます。司馬遼太郎は、維新によって切り開かれた明治の時代をすこぶる明るく描き、日本が駄目になったのは大正からだと言っています。大正と昭和の元は明治に土台が出来ていることになるので、この説はやはり再検討に値するかもしれませんね。

ただ小三郎や竜馬さえも願っていたように戊辰戦争に続く内戦は避けら

れたでしょうかね。列強の内政干渉に対抗する挙国一致体制が出来たでしょうかね。ある程度拮抗する軍事勢力が並立している時には、政治の延長としての戦争は避けられないというのがこの時代の流れであり、大阪夏の陣もそうだったのだと思います。

それと小三郎の提案が先駆的であることは確かですが、普通選挙に似たような制度はこの時代には環境が熟していなかったこともまた確かでしょうね。殆どが農民で識字率も低くかったでしょうから、まず困難だったでしょう。今発展途上国で実施されている選挙の状況を思い浮かべます。今の日本ですら普通選挙が公平に実施されていると確信田来るようになったのはそう古いことではありません。

著者が盛んに力説している「日本は明治以来一貫して長州レジームによって築き上げられた強固な官僚組織による有司専制体制だった」という説には直ちに首肯出来ませんが、今の安倍政権のやっていることはひどいですね。何故国民はもっと怒らないのか。

最近京都で「怒れる60年代の会」というのが結成されており私も老骨に鞭打って参加しています。私は韓国の整然とした非暴力のデモ・が政権を倒したことに注目しています。

< 動画 > コーナー

yaku5151 (小泉)

風薫五月、清々しい季節になりました、皆さんお元気な事と思います。

ゴールデンウィークは如何お過ごしになりましたか？

旅行・里帰り・公園・孫守りと様々にお楽しみになった事でしょう。

私の住む町は2・3日が「青梅大祭」なので、1日準備・4日片付けと毎年行楽には何処へも出かけられません。好天に恵まれた2日間、今年も人出が多く移動も大変なくらいでした。

私も浴衣に町内の半纏を着用（撮影には何処へでも入れるので (^_^♪)

そのような中で、私の住む町内を主に撮影し7本の動画に纏めました。

「青梅大祭」の動画をお時間のある時にご覧頂き、お楽しみください。

- 1) 祭りの始まり https://youtu.be/Ka_08M0iLcw
- 2) 神社参拝 <https://youtu.be/FyYjE9yZY2o>
- 3) 本祭り山車巡行 <https://youtu.be/zmkVDoiIFlM>
- 4) 大祭本部前 <https://youtu.be/oTB7YIX7HC4>
- 5) 午後の賑わい <https://youtu.be/g99JBnpAEa4>
- 6) 大祭一の見所 <https://youtu.be/Z1oycX0YyyE>
- 7) 大祭の大締め https://youtu.be/M14WL0Cf_JA

連載作品

いつも大変お世話になっています。

先月お知らせしました ガンジーについての資料 (『M.K. ガンジー』差別の撤廃と独立運動に捧げた生涯、ガンジーの残した遺産は何か) をお送りします。2月外国人記者クラブ(有楽町電気ビル)、3月日比谷図書文化館で話した内容に若干補筆したものです。コメントがありましたらお知らせください。(佐川雄一)

『M.K. ガンジー』(3)

—差別の撤廃と独立運動に捧げた生涯、 ガンジーが残した遺産は何か—

佐川雄一

追記：

J. ネルーについて：

ガンジーの後継者として知られる J. ネルーは、21 世紀に入った今日でもインド人から敬愛されている政治家である。ネルーについて簡単に紹介しておきたい。

J. ネルーは(1889 年～ 1964 年) は、ガンジーの生誕(1869 年)から 20 年後の 1889 年インド北部のアラハバードで生まれた。父親は著名な弁護士、カーストはカシミールのバラモン、幼少期から英国人の家庭教師について英語を学習。英国に留学、トリニティ・カレッジで法律を勉強、弁護士の資格を取得。“銀のスプーンをくわえて生まれてきた”(born with a silver spoon in one's mouth) とされるエリート。その彼が英国から帰国後、“差別なき社会”・“完全独立”を目指すガンジーに共鳴、ガンジー率いる大衆運動に参加する。ガンジーと同じく、強い国家愛に後押しされての活動である。目線を大衆に落として、彼らが直面する困窮・差別に理解を深め、インド国民会議派のリーダーに登りつめる。ネルーは、ガンジーを心底から尊敬するが、後年政策面での相違も鮮明になる。

ネルーは、ガンジーとともに非暴力・非服従のデモを指導し、投獄を繰り返す。第二次世界大戦の終結までの在獄日数は、ネルーは 3,262 日(8 年 11 ヶ月)に上った。ガンジーの在獄日数は、2,338 日(6 年 5 ヶ月)であった。

当時の政治運動のリーダーは、家庭生活に十分な時間を割くことができず、家族は厳しい環境下に置かれた。ガンジー、ネルーも例外ではなかった。ネルーは、28 歳の時、カマーラ・コール(17 歳、カシミールのバラモンで富裕な商人の娘)と結婚、娘インディラが生まれるが、妻カマーラは病弱で長い間、サナトリウムで静養、最後はスイスで治療、1936 年、彼地で死亡する。カマーラは強い愛国心を持ち、ネルーとともに独立運動に参加、投獄されている(1931 年)。ガンジーの妻;カストゥルバもデモに参加、投獄された(1933

年)。ネルーは、獄中の時間を利用して読書に励むようガンジーに勧められ、読書に励む。併せ、彼は、獄中、三冊の著作を書き上げる。いずれもインドを代表する名著である。

自叙伝；1934年6月～1935年2月までの獄中で書いたもので、多くのページがガンジーに割かれ、ネルーのガンジー観が総括されている

父が子に語る世界歴史：1930年10月～1933年8月にかけて獄中で執筆。一人娘インディラのために、手紙のかたちにして世界歴史を彼女に語りかけた歴史書

インドの発見：アフマッドナガル要塞の監獄で、1944年4月から同年9月にかけての5ヵ月間で執筆、インドの古代から現代に至るインドの変遷を俯瞰的視野で分析する最高傑作

インドの独立（1947年8月）に先立つ9ヵ月前の1946年末、ネルーは、憲法起草委員会を設立、三年かけて憲法草案を完成する。委員長には、不可触民出身のアンベドカール（初代法務大臣）が就任。

ネルーは、17年間（1947年～1964年）首相に在職。ネルー政権下での汚職はほとんどなかったと言われているが、ガンジーの思想が深く根付いていたためではないかと考えられる。ネルーは、1927年妻：カマーラと4日間の短い期間ではあるが旧ソ連邦を訪問、深い感銘を受け、独立後、社会主義路線を採り、旧ソ連邦との関係を深めていく。いかなる種類の軍事同盟や軍事ブロックにも参加せず、非同盟政策を推進した。

1957年訪日、台東区の小学生の要望に応え、上野動物園に象（インディラ）を寄贈。

ネルー政権が犯した最大の失策は、1962年の印中戦争であろう。中国軍にインドは完敗する。

ネルーは、一貫して社会主義路線を採り、基幹産業の国営化を進めるが、ネルーの死から30年後の1991年、インドの財政が悪化、モラトリアム寸前に陥る。この後、IMFの助言を受け入れ、経済改革を推し進め、国内民間資本の育成・外資の導入を促し、今日に至る。

ネルーの一人娘；インディラは、1966年～1977年、1980年～1984年の二期、首相職を勤めるが、1984年シーク教徒の護衛に暗殺される

参考文献：

ガンジー自叙伝 M.K. ガンジー 蠟山芳郎訳 中公文庫

An Autobiography - The Story of my experiments with truth M.K. Gandhi

世界の名著 63 中公新書

ガンジーとネルー インド思想の現代における再生 蠟山芳郎

ガンジー自叙伝 蠟山芳郎訳

ネルー自叙伝 蠟山芳郎訳

Mahatma Gandhi's Ideas C.F. Andrews（日比谷図書文化館 内田嘉吉文庫）

Constitutional Law of India by Durga Das Basu

インドの発見 J. ネルー著

The Discovery of India by J. Nehru

Mahatma Gandhi by Roman Rolland (日比谷図書文化館 内田嘉吉文庫)

ガンディー 反近代の実験 長崎暢子著

フリー百科事典：Wikipedia：List of Notable Indian American

(終わり)

天のわざ、地のほまれ

—地球を測れ、宇宙をはかれ—

伊那 闊歩

25. エネルギーとは

エネルギーとは「仕事をする能力」であるという。第 21 回にも述べたようにエネルギーには「力学的エネルギー」「熱エネルギー」「化学エネルギー」「電気エネルギー」「核エネルギー」… などさまざまな形態があつて、それぞれ独立に固有のエネルギー単位たとえばジュール、カロリー、ワット時、エレクトロン・ボルト等々を使って、エネルギーの大きさを測っている。

そのため、エネルギーの正体は捉え難く、はたして各エネルギーの間に関連はあるのか、あるとすればそれらの間でエネルギー量の換算が可能なのかどうかわからなくなってくる。じつは現在、これらエネルギーの正体は解明されており、各エネルギー量の換算法も確定しているのである。現代社会は、これらエネルギーを生み出す効率的な方法とか、制御の方法、省エネなどもっぱら技術的な問題の解決に努力を傾注してきた。

しかしながら、原発事故のように計画が破綻した場合われわれ一般人も国のエネルギー政策を根本的に見直す必要にせまられると同時に、事故による風評被害に対処しなければならない(†)。そのためにも、各エネルギーの正体とそれらの相互関係をよく理解しておくことはたいへん重要であると思われる。

(†) 福島原発事故以来、シーベルトやベクレルなど放射線量についての知識不足に起因する風評被害により、マスコミをはじめとして日本社会(世界も)は大いに混乱した。しかしながら、放射線エネルギーについての知識が深まったとはいまだに思えない。

まずは物事を単純化して質点に加えられる仕事について考えよう。質量 m があつて大きさのない(仮想的な)物体を質点という。質点に一定の力を加えて、直線上ある距離移動させる。この時、加えた力の方向と質点移動する方向は、一般には一致しないであろう。力も質点の位置も三次元ベクトルとして \vec{F} , \vec{R} などと表わせる。力を加えたことにより質点は \vec{R} から $\vec{R} + \vec{l}$ の位置に動いたとする。質点の移動距離は \vec{l} の大きさ l である。「物の移動距離」と「移動方向への力の成分」との積を、力が物に為した(加えた)「仕

事」という。力 \vec{F} の方向と質点の移動 \vec{l} の方向との間の角を θ とすると仕事 W は

$$W = Fl \cos \theta$$

と書ける。ここで F は力 \vec{F} の大きさである (fig.1)。力の向きと移動の向きが一致する時、すなわち、 $\theta = 0$ の時 $\cos \theta = 1$ であるから $W = Fl$ となって力は最大限の仕事をしたことになる。 $\theta = \pi/2$ ($= 90^\circ$) の時 $\cos \theta = 0$ であるから、この場合は $W = 0$ 、つまり質点の移動方向にたいして垂直に働く力は質点に対していささかの仕事もしていないことになる。

ここで、これまでの復習をかねて、上記のことをさらに詳しく検討するために、地上から小石を(質点と見做して)空に向かって真上に投げ上げる場合について考えよう。大空に向かって y 軸を立て小石が飛んでいく高さを測る。地表の位置は $y = 0$ である。小石が飛んだ高さ y も速度 v も時間 t の関数である。小石の飛行中に小石に働く力は、地表付近の重力 $-mg$ だけである。重力は y 軸の正の方向とは反対向きに(負の向きに = 地球の中心方向に)働くのでマイナスがつく。運動方程式は、重力加速度を g ($= 9.8 \text{ m/s}^2$) として

$$m \frac{dv}{dt} = -mg$$

(*)

と書ける。共通の係数 m を落として時間 0 から t 秒まで積分すれば、

$$\int_0^t \frac{dv}{dt} dt = - \int_0^t g dt$$

この両辺の積分をそれぞれ計算すれば

$$v(t) - v(0) = -gt$$

となる。ここで y 方向の速度 v は時間 t の関数としている。 $v(0)$ は投げ上げた時の初速度で、これを秒速 20 メートルとしよう。 $v(t) = dy/dt$ であるから

$$\frac{dy}{dt} = 20 - 9.8t$$

と書き直され、これを再び積分して

$$y(t) - y(0) = 20t - 4.9t^2$$

を得る。y(0) は投げ上げた時の位置すなわち y(0) = 0 である。以上まとめて

$$y(t) = 20t - 4.9t^2$$

を得る。この式のグラフを、縦軸を投げあげた高さ y、横軸を時間 t として描いたものが fig.2 である。

以上で、小石を投げ上げた時の小石の運動については、よくわかったものとする(OK?)。その運動は、重力加速度 g と投げ上げた時の初速度だけできまるのであって、石の重さには全然かんけいないことがわかる。つまり、重い石も軽い石も投げ上げる初速度が同じならば、まったく同じ運動をする。じつは、ニュートンの運動方程式(*)からわかることはこれだけではなく、さらに重要なことを内包しているのだ。これからが今回のメインテーマなのである。

ニュートンの運動方程式(*)の両辺に、投げ上げた小石の速度 v(t) をかけて t = 0 から t まで積分してみる(両辺に質量 m は残しておく):

$$\int_0^t mv \frac{dv}{dt} dt = - \int_0^t mvg dt$$

ここで微分の公式により、 $v(dv/dt) = (1/2)(dv^2/dt)$ であることを使えば

$$\int_0^t mv \frac{dv}{dt} dt = \int_0^t \frac{1}{2} m \frac{dv^2}{dt} dt = \frac{1}{2} m \int_0^t \frac{d}{dt}(v^2) dt = \frac{1}{2} mv^2 - \frac{1}{2} mv^2(0)$$

となる。ここで $v^2(0)$ は t = 0 での小石の初速度の 2 乗である。一方右辺は

$$- mg \int_0^t \frac{dy}{dt} dt = - mg \int_0^y dy = - mgy + mgy(0)$$

y(0)は t = 0 での小石の位置であって、今の場合 y(0) = 0 であるが、そのままのこしておく。積分変数を t から y に変更すれば、積分の上端、下端の変数も変わることには注意されたい。得られた結果を整理して次のように書き直す:

$$\frac{1}{2} m v^2 + mgy = \frac{1}{2} m v^2(0) + mgy(0)$$

(**)

この結果を観察してみると、左辺は全体で時間 t の関数であるから t の増減によって変化するはずのものである。ところが右辺をみると各項が時間 $t = 0$ においてすでに数字で与えられているので ($v(0) = 20\text{m/s}$, $y(0) = 0$ であった)、右辺は全体としてひとつの定数であることがわかる。ここに得られた数式の左辺第1項： $(1/2) m v^2$ を投げ上げられた小石の**運動エネルギー**という。左辺第2項： mgy を**位置エネルギー**と呼んでいる。

投げ上げる物体が小石ではなく、野球の硬式ボール（重さ $m = 145$ グラム $= 0.145$ kg）として(**)の右辺だけ計算してみよう。

$$\frac{1}{2} m v^2(0) = 0.5 \times 0.145 \times 20 \times 20 = 29 \text{ (kg} \cdot \text{m}^2/\text{s}^2), \quad mgy(0) = 0$$

ここで、ややこしい組み立て単位 ($\text{kg} \cdot \text{m}^2/\text{s}^2$) がついているがこれをひっくり返してジュールといい、記号 J を使うことにする。ジュールはエネルギーの単位で、物を 1 N (ニュートン) の力で 1 m (メートル) 動かす仕事量に相当する。 $1\text{ J} = 1\text{ N} \cdot \text{m}$ 。1ジュールは、地上で蜜柑1個(102グラム)を1メートル持ち上げる時に費やすエネルギー量である。

そこで野球ボールを初速 20 m/s で投げ上げた時の結果は

$$\frac{1}{2} m v^2 + mgy = 29\text{ J}$$

となる。運動エネルギーと位置エネルギーの和を全エネルギーというが、ここで重要なことは、運動にかかわる**全エネルギーは常に保存される**ということである。この例においては、 $t = 0$ で $y = 0$ であるから、全エネルギーはすべて運動エネルギーであって、その値は 29 J である。ボールが最高点に

達したとき ($t = 2.08$ 秒、高さ 20.4m) ボールのスピードは 0 になるから、
 そこでは位置のエネルギー ($= 0.145 \times 9.8 \times 20.4 =$) 29J が全エネルギーを与える。

運動エネルギーは速度の 2 乗であるから、車に乗っていて何かに衝突した場合、スピードが遅くともその衝撃はいがいに大きく感じるものであるらしい。位置のエネルギーは位置 (の差) によって決まるエネルギーである。

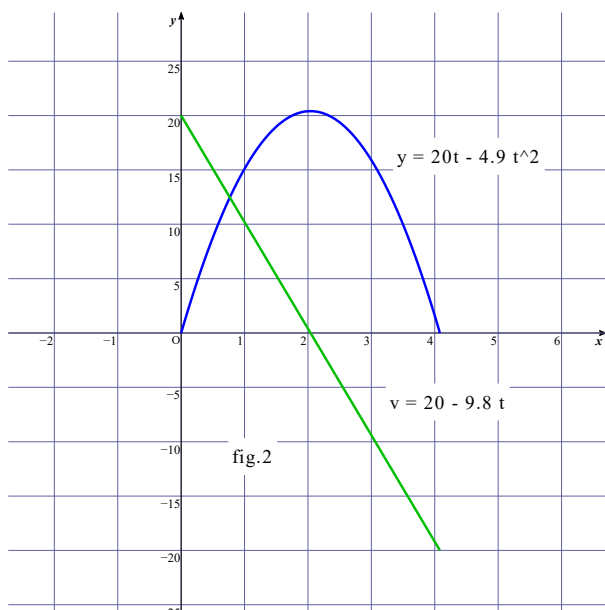
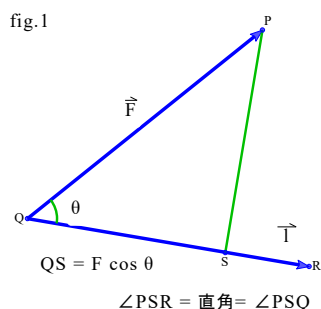


fig.2 初速 20 m/s で投げられた小石が到達する高さ y (m)の時間変化の
 グラフ (青色) と小石のスピード v (m/s) の時間変化のグラフ (緑色) を同
 じ座標平面上に描いている。横軸は時間 t (秒) であるが、縦軸の目盛は青色
 にたいしてはメートル、緑色については メートル/ 秒 として読み取って
 いただきたい。青色の放物線は時間変化を表すので、空間的な軌道を表してい
 るのではないことにご注意いただきたい。小石のスピード (緑色) は投げ上

げた瞬間から直線的に減りつづけ(この間、運動の方向と力の方向は逆である) $t = 2.04$ (最高点) で 0 となり、以後スピードはマイナス(運動の方向と力の向きは一致)になる。つまり、スピードの方向は(天にむかっていたのが)地に向かうということを表している。投げ上げられた小石は $t = 4.08$ 秒後に地上にもどってきてその時のスピードは地面の方向に 20 m/s であることも読み取れる。

＜そうだ京へ行こう・古刹の花物語＞(22)

大竹 漢州

洛中の洛外 1・吉野と南北朝(その3)

長い最後の余談になります。

後醍醐天皇の一生は、鎌倉幕府介入による皇統分裂に対する反感と討幕計画の失敗、隠岐島へ配流、脱出、鎌倉幕府滅亡・建武の親政・足利尊氏反旗・吉野山へ脱出・南北朝分立でした。後醍醐天皇が、怨霊に化して暴れまわる原因は、この悲運な一生の中に存在しています。

後醍醐天皇は、正応元年(1288年)に後宇多天皇の第二子として誕生しています。正安3年(1301年)に後宇多天皇の祖皇にあたる後嵯峨上皇の違勅で皇位継承権が乱れ、幕府が介入して「持明院統」と「大覚寺統」との両統で交互に即位する「両統迭立」が成立させられました。延慶元年(1308年)に、後二条天皇が急死すると「持明院統」の花園天皇が即位して、皇太子・尊治親王として擁立されています。

9年後の文保元年(1317年)には、「両党迭立」が遵守されなかったことで、再び幕府の介入があり「文保の和談(踐祚一天皇即位・立坊-皇太子擁立の事は和与で決すべし)」を成立させられました。「文保の和談」では、

- 1)「持明院統」の花園天皇から「大覚寺統」の尊治親王 後醍醐天皇への譲位
- 2)今後、在位期間は10年、「両統迭立」を道守
- 3)皇太子は「大覚寺統」邦良親王・次は「持明院統」の量仁親王(光厳天皇)が決められました。

南北朝勤乱の最大の原因は、二度に亘る蒙古襲来以降、弱体化した鎌倉幕府の皇権の介入に対する反発にありました。幼い頃から尊治親王は、宋学(大義名分論・尊皇斥覇)を学び、賢い青年皇太子でした。翌年文保2年に「文保の和談」で、即位した後醍醐天皇は、在位期間まで限られ、しかも皇位継承権(自らの血統は不可)まで定めた幕府介入に強い反感を抱きました。

即位して3年後の元亨元年(1321年)に、早くも「持明院統」へ譲位を求めた鎌倉幕府の討幕計画に動き出しています。後宇多上皇の院政を廃止して、後醍醐天皇は親政を開始すると「関東調伏」の呪詛を行っています。

後醍醐天皇は天皇に似付かわしくない肖像画を遺しています。天皇にも関わらず密教の法衣を纏い、手に独鈷をもち、幕府転覆のために護摩を焚いている「異形の天皇」の姿です。

正中元年（1324年）には「正中の変」と呼ばれる討幕を計画をしましたが、密告で露見して失敗しています。再び元弘元年（1331年）にも「元弘の変」を計画しています。再び密告計画は発覚しましたが、後醍醐天皇は笠置山で、楠木正成は赤城城で挙兵。しかし後副天皇は幕府軍によって捕縛され、翌年隠岐島に配流されています。この時に大塔宮護良親王が吉野山・金峯山蔵王堂で挙兵したことは既に記しました。

幕府によって廃位された後醍醐天皇の後継は「持明院統」の光厳天皇（量亡親王）が即位しています。

元弘3年（1333年）。後醍醐天皇は隠岐島を脱出して、伯耆の国・大山郡の船上山で、名和利長が天皇を奉じて、山上の智積寺を在所として挙兵すると共に、各地の御家人に激を飛ばしています。応じた足利尊氏は京都の六波羅探題（鎌倉幕府が京都守護に代わって六波羅に置いた機関）を攻略し、新田義貞は、稲村ヶ崎鎌倉に突入して幕府を滅亡させています。後醍醐天皇は、京都に還幸して光厳天皇を廃位させています。

建武元年（1334年）に建武政権が成立して「建武の新政」が始まりました。『朕の新儀ハ未来/先例タルベシ』（梅松論）。後醍醐天皇の目指した政策は、皇権の強化にありました。後醍醐天皇は「建武の新政」でも自らの発給する倫旨の絶対性を貫いたため混乱を招き、足利尊氏と対立して、吉野山に移り建武3年に南朝を成立させましたが、3年間の短命で終わっています。

そして後醍醐天皇は歴応2年（1339年）、義良親王（後村上天皇に譲位した後に死去しています）。

前段の後醍醐天皇の年譜が長くなりました。これから後醍醐天皇の怨霊化に話は移ります。天皇の怨霊化は、太平記に詳しく記されています。

- 1) 朝敵を滅ぼして、天下を太平にできなければ、生まれ変わりを繰り返しても、妄念となるであろう。
- 2) この身は吉野に眠るとも、魂は京都の内裏に寄内裏に寄せ続ける。
- 3) 左手の法華経五巻は、生前の悪行に対して、後醍醐の成仏の願望を示す。
- 4) 右手の策剣は、足利尊氏他の朝敵打倒の念を示す

後醍醐天皇の死去後に、南朝が所有していた三種の神器の一つ「勾玉」を、南朝と北朝の間で、臣下を巻き込んだ争奪の乱が多発しました。「嘉吉の変」と「長祿の変」。特に「長祿の変」は北朝の臣下赤松政則が、吉野山を襲撃して奪われた「勾玉」を奪い返した「変」です。三種の神器が総て北朝に揃うことになります。

そして後醍醐天皇の怨霊が仕組んだと信じられている最大な「乱」が、応仁元年（1467年）から文明9年（1477年）まで11年間も続いた「応仁・文明の乱」でした。この「乱」は有力守護の山名宗全が南朝の小倉宮（後亀山天皇の皇子）を擁立して、管領の細川勝元は北朝の後土御門天皇を擁立して対抗した「乱」です。「応仁・文明の乱」で、京都を中心に培われてきた平安京の文化物が、全て灰塵に帰しています。

この「乱」で中世が崩壊しています。

余談の余談です。現在、吉野周辺の約200軒の家が、16弁の菊花紋章

を所有して「南天北闕天皇弥栄」を北朝皇統を呪記しています。南北朝勤乱が最後まで影響を与えてきた地域です。吉野地方な未だ未だ南朝を意識している地域、南北朝問題はタブー視されていて、小中学生の教科書に記載されていません。

その後には後醍醐天皇怨霊の鎮魂が行われています。

1) 天龍寺（京都五山第一位）の建立

足利尊氏・直義が夢窓疎石の進言で、怨霊鎮魂の目的で建立されました。歴史的な前例－菅原道真の聖廟（北野天満宮）にならって、吉野から京都を意識して 後醍醐天皇の廟所として建立しました。

2) 吉水院（元は金峯山寺本堂の蔵王堂の供僧坊で南朝の行宮）に後醍醐天皇の像を安置。

神仏分離令（廃仏棄釈）により、吉永神社として改まり、後醍醐天皇を主祭人に楠木正成と吉水院宗信法印を合祀しています。

3) 安国寺・利生塔（供養塔）の設置政策

足利尊氏が後醍醐天皇と南朝の人々に対して、鎮魂目的に、全国66ヶ国、2島（壱岐対馬）に設置しています。供養塔は840, 000塔も建立されたとのこと

最後の「吉野と後醍醐天皇」の項目が長くなりました。実際四回も旅した実感は、吉野山は古くは役行者に開かれた霊山霊地で、不思議なパワーを秘めた地域です。後醍醐天皇も大塔宮護良親王もパワーに掛けて挙兵しましたが、吉野山は奥上中下千本の桜で名所です。桜に酔った挙兵かもしれません。いや後醍醐天皇は、歴代天皇で最も高い理想と変革を求めた天皇でした。

合掌

芳野 河野 鉄兜

山禽叫断 夜 寥々

限り無きの春風 未だ銷せず

露臥す延元 陵下の月

満身の花影 南朝を夢む

酔っていたのは、旅人でした。櫃原神宮駅で乗り換えてから熟睡して、気が付くと東寺近くで間もなくJR京都駅でした。長かった『京・古刹の花物語』もそろそろ終わりです。これからも病状が悪化しない限り、京都の旅はまだまだ続きそうです。

般若心経読本（9）

藤田 克明

〔仏設摩訶（ぶっせつまか）〕

般若波羅蜜多心経（はんにゃはらみったしんぎょう） 唐三蔵法師玄奘 訳

故知般若波羅蜜多 是大神咒 是大明咒 是無上咒 是無等等咒 能除一切苦
真実不虛

(こちはんにやはらみった ぜだいじんしゅ ぜだいまょうしゅ ぜむじ
ょうしゅ ぜむとうどうしゅ のうじょいっさいく しんじつふこ)

(故に知る、般若波羅蜜多は、是れ大神咒なり。是れ大明咒なり。是れ無上
咒なり。是れ無等等咒なり。能く一切の苦を除き真実にして虚(むな)しか
らず。)

【訳】 仏の智慧で仏の国に行く修行について今までいろいろ説いてきたが、
「般若波羅蜜多」が偉大な呪文である(という)ことが分かってきた。それ
は一切の苦を鎮(しず)める真言であり、ウソ偽 いつわりがないから真実な
のである。

【解説】

一、

いよいよ最後の「結」、『般若心経』の結論部分に入ってきました。般若波
羅蜜多(完成された智慧)は、一切の人間の苦を取り除く力をもつ真言 マ
ントラ(仏のほんとうの言葉・密教で真理を表す秘密の言葉)であると示さ
れました。真言即ち陀羅尼を誦(とな)えさえすれば、真言の験力(げんり
よく)があらわれて苦厄の一切(心の無明)が除かれる。つまり般若波羅蜜
多とは、呪であり呪こそ真実であるといっています。砕いていえば『般若
心経』がはじめから繰り返し説いてきた「有ることにとらわれず」「無いこ
ともにとらわれず」という「空」の世界は、言葉を超えた呪だけがそれを
なし得ると述べています。

換言すれば仏典の言葉をただ字面だけで追っていたのでは、本当の仏の世
界、真実の世界はあらわれてこない。それらの言葉の背後にこそ真実の世界
はある。それが「呪(呪)」なのです。そして、この呪は真言とされ真言(呪)
を唱えることで仏にじかに働きかけることが出来ると説いています

二、

「大神咒(マハー・マントラ)」は偉大な精神的呪文ということで声聞(しよ
うもん)が唱えるとされ、「大明咒(マハーヴィドゥヤー・マントラ)」は仏
の真実の智慧の光のように、私たちの無知(無明)を破って余すところがない
呪文 ということで、縁覚(えんがく)が唱えるとされています。また「無
上咒(アヌッタラ・マントラ)」は、この上ないすばらしい呪文で菩薩が唱え、
「無等等咒(アサマサマ・マントラ)」は比べるものがないということで如来
が唱えるとされます。なお「故知」は、以上の理由から次のことが分かって
きたということです。

このように『般若心経』では位によって違う四種の「呪」(注 25)があ
り、この四つの偉大な力をもつ「呪」を唱えることによつて、この世のすべ
ての「苦」から解放される、それが「能除一切苦」です。そして「真実不虛」。
『般若心経』には、教理・実践・功德のすべてが具わっていて何一つ欠けて
いるものはない(不虛)と言い切っています。

では、そのすばらしい呪文とはどんなものなのか、それは次のようなものだ
よと次章の「掲諦（ぎゃてい） 掲諦～」へと最終段階に進んでいきます。い
よいよ『般若心経』の結論 フィナーレ に入ってきましたが、ここに出てき
た「呪（呪）」について、少し中身を調べて おきましょう。

「呪」とはサンスクリット語の「マントラ・mantra」の訳語ですが、この
「マントラ」は古い歴史をもつ言葉で、仏教誕生以前から用いられていると
され、インド・アリア人の最古の典籍『ヴェーダ』では、宗教的儀式に用
いられる神歌一般をいい、讃歌、祭歌、歌詠の総称でした。このマントラが
仏教のなかに持ち込まれたのは、バラモン出身の修行僧であったろうといわ
れています。ところで、この「呪」は呪術的な色彩が強いので論理的思考の
持ち主である釈迦は、「呪」については一部を除いて否定的でした。しかし大
乗仏教では「呪」は仏の真実を伝える霊威ある言葉として、陀羅尼（だらに）
（「ダーラニー・dh a-rani-」・持つ、総持の意）と同じように次第に高い価
値が付与されるようになりました。そして仏の絶対智は翻訳不能な「呪」に
よってのみ表現しようとし、「呪」は次第に「真言」と訳されるようになりま
した。空海の『般若心経秘鍵』（注 26）でも「呪」は、まさに仏の真実語（本
当の言葉）を表しているとしています。「真実」とは、現実を離れた真理
ではなく、現実のなかにある真実ということです。

以上を総括しますと「般若波羅蜜多」は、説き進められて遂には言語を超
えた「呪」「真言」である。つまり「智慧」の本体は「呪」であり「真実」そ
のものであると『般若心経』はいつているのです。かくてこの真実の働き
（用・ゆう）は真実そのものを明らかにし、真実でないものからくる一切
の苦（無明の苦）を取り除き、不思議な働きは「知」の対象ではなく「信」
の対象であって、いまや説の段階から信の段階という最後のところに歩みを
移してきています。

三、

この段にも『般若心経』全体の構成からみて、疑問がぬぐえない個所があり
ます。それは空や無が説かれている『般若心経』に、突然密教にかかわる教
えが説かれていることです。『般若心経』は「三世諸仏（さんぜしよぶつ）
依般若波羅蜜多故（えはんにゃはらみったこ）得阿耨多羅三藐三菩提（とく
あのかたらさんみやくさんぼだい）」までは般若波羅蜜多が偉大なる真言で
あり、その力で一切の苦を取り除くという主張でした。要するに般若波羅蜜
多の効用（役割）についての記述が続いていました。

しかし効用について述べること自体が「空」の教えから見れば矛盾してい
ると指摘しましたが、この段では更に「呪」という密教の思想が導入されて
います。空の教えは、すべての実体を否定するものでした。しかし呪は密教
における神秘的な力をいい、実体をもつものとして捉えています。つまり、
実在を否定する立場と、それを肯定する立場との両方がこの『般若心経』で
はまた説かれていることとなります。密教の呪を取り入れたことは、大乗仏
教の中心思想である「空」を突き崩しているといってもよいと思います。補
足しますと『般若心経』は顕教（けんぎょう）の教えですが、「故知般若波羅
蜜多～」「故説般若波羅蜜多咒～」になると真言があらわれて密教的分野に入
ってきます。

顕教とは空海が設けた概念ですが、衆生の性質や能力に応じて經典の文字や言葉で仏教を伝達することを指します。それに対し密教は文字、言語の伝達は認めません。また密教は陀羅尼や真言を重視しますが、顕教は重視しません。しかし、ここでは顕教に密教が入り込んでいます。以上についての識者の見解はさまざまですが、現実の宗教の実践の場では、この矛盾にはそれほど注意が払われず空の教えと密教の教えとは、不思議なことに両立がはかられてきたのです。両立の理由として考えられることの一つは、大乘仏教が歴史を重ね宗教的に進展していくなかで、インドの土着的な宗教との習合現象が起こり、それにより呪術的な要素が入り込んで密教的色彩を帯びたこと。二つ目には大乘仏教より後に密教が成立しており、しかも空の理論から密教を批判する有力な見解が生まれなかったことが考えられます。また『般若心経』は、空の理論から密教へと自然につながっていくような書き方になっていることも違和感を感じさせないのかも知れません。一方、矛盾した密教を取り組むことで、大乘仏教は延命を図ってきたのではないかという識者もおられます。

〔注 25〕 四種の呪

- ① 「大神呪」(マハー・マントラ、mah a--mantra)。般若には計り知れない威力があること。
- ② 「大明呪」(マハーヴィドゥヤー・マントラ、mah a -vidy a--mantra)。般若の慧光がわれわれの無知(無明)を破ってくれること。
- ③ 「無上呪」(アヌッタラ・マントラ、anutara-mantra)。般若の威徳は、世に較べるものがないこと。
- ④ 「無等等呪」(アサマサマ・マントラ、asamasama-mantra)。右の三つに較べて比較することができないほど、般若の教えは優れていること。

〔注 26〕 空海の『般若心経秘鍵』では、『般若心経』は次の五つの部分から構成されているとしている。

- 一、「観自在菩薩 ～ 度一切苦厄」は、人と法(真理)を総体的に説き明かす部分。人法総通分(にんぼうそうつうぶん)。
- 二、「色不異空 ～ 以無所得故」は、色々な宗派による諸々の教えを説く部分。分別諸乗分。
- 三、「菩提薩埵 ～ 三藐三菩提」は、修行の功徳を説く部分。行人得役分(ぎょうにんとくやくぶん)。
- 四、「故知般若波羅蜜多～ 真実不虛」は、すべてが真言に帰することを説く部分。総帰持明分。
- 五、「掲諦 掲諦 ～ 菩提僧莎訶(ぼじそわか)」は、秘密の真言を説く部分。秘蔵真言分。そして右の二、の分説として大日如来(真言密教の究極の仏)の機能を、夫々五人の如来に担当させているとしている

- ① 色 不異空 ～ 亦復如是 ➡ 普賢菩薩の悟りの教え。現象界＝本体界という真理。華嚴宗の教え。
- ② 是諸法空相 ～ 不増不減 ➡ 文殊菩薩の悟りの教え。中観の教え＝執着の心を絶つ。三論宗の教え。
- ③ 是故空中無色 ～ 無意識界 ➡ 弥勒菩薩の悟りの教え。唯識の教え＝外界

は存在しないという教え。法相宗の教え。

④ 無無明～無老死尽 ➡ 独自に悟る者の精神統一の境地。小乗（声聞・縁覚）の教え。

⑤ 無苦集滅道 ～ 以無所得故 ➡ 観自在菩薩の教え。理性と智慧が融合する境地。天台宗の教え。

文化講座・講演会・美術展

奈良興福寺文化講座 2017年5月18日（木曜日）

午後5時半～6時半：第一講

講演：「興福寺の寺宝と畠中光享展によせて」

興福寺境内管理室次長 多川文彦

午後6時40分～7時・・・心を静める

午後7時～8時：第二講

連続講話・「奈良・祈り・心」

興福寺 貫首 多川俊映

会場：（学）文化学園 文化服装学院内

受講料：500円 先着200名

（JR新宿駅南口、小田急線、京王線各新宿駅から8分、都営新宿線新宿駅3分）

第82回 新三木会講演会のご案内

1. 日時・会場 2017年5月18日（木）13:00～15:00

如水会館（2F）・スターホール

2. 演題・講師 『新興国・ブラジル、その変遷と日伯交流』

堀坂浩太郎氏 上智大学名誉教授

栗田政彦氏 日伯経済文化協会副理事長

3. 申込・会費 E/Mail: shinsanmokukai@gmail.com

TEL: 047-464-4063

フルネーム・卒年・所属（例：一般・紹介者名）

会費：2000円 婦人1000円 学生無料

茶話会：15:15-14:20 千円（自由参加）

4. ホームページ

<http://jfn.josuikai.net/circle/shinsanmokukai/>

5. 予告

- 6/15(木) 第 83 回 佐藤勝彦氏 宇宙物理学者・東京大学名誉教授
『宇宙はいかに始まったか?』
- 7/20(木) , 第 84 回 浅野純次氏 経済倶楽部理事
石橋湛山記念財団理事 元東洋経済新報社社長
『気骨の自由主義者、石橋湛山回想』

＜すどう美術館＞

東京銀座「ギャラリー枝香庵」でのすどう美術館コレクション展

石川県の「金沢ひとり美術館」畝一雄さんのご協力により行うすどう美術館のコレクション展で、会期は 6月26日(月)から7月1日(日)までです。

お知らせとお願い

- ・立川志らく 立川志らら 「師弟二人だけの落語会」のご案内
すどう美術館に関係の深い志ららさんが師匠の立川志らくさんとの「師弟二人だけの落語会」が5月29日(月)19:00より「お江戸上野広小路亭」で開催されます。(前売り 2,000円 当日 2,500円) 出席ご希望の方は詳細をお知らせしますのですどう美術館にご照会ください。なお、予約はすどう美術館で一括して直接志ららさんにいたします。

すどう美術館友の会「AQUAクラブ」(会長 堀典子)からのお願い

すどう美術館の活動を支援するためご配慮いただければ幸いです。

(年会費) 3,000円

(振込先) ゆうちょ銀行 No. 00270-7-97439

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

◆住所が変わりました◆

すどう美術館

〒250-0853

神奈川県小田原市堀之内 110-2 ベルデュール 103

◆電話、メールは変わりありません◆

Tel 0465-36-0740 Fax 0465-36-0739

メール info@sudoh-art.com

ホームページ <http://www.sudoh-art.com>

事務局

＜事務所までの道のり＞

場所：〒110-0016 台東区台東2-21-9 双葉ビル2F202号
(電話・FAX 番号：03-3837-0290)

御徒町界限では、JR山手線・京浜東北線と昭和通りが南北に並行して走

っています。

- ① JR 御徒町駅北口を出てすぐ右に折れて、2ブロック直進すると、昭和通りに出ます。右に多慶屋の紫色のビルを見てさらに8ブロックほど直進すると、
- ② 都営大江戸線の新御徒町駅のA2入口が右側にあります。やや進むと（都営大江戸線の新御徒町駅A2入口を出た場合は右に回ると）、佐竹商店街のアーケードがあります。右折してアーケードを7ブロックほど直進すると、佐竹商店街の出口に到達します。そこを右に曲がってしばらく行くと、左側に薄青いビルがあります。（1階は焼肉屋「もとやま」。）そのビルの2階です。

<投稿歓迎><図書のおすすめ依頼>

<プリント版・郵送>

メール版(無料)を月に一回編集してプリント版を発行郵送しています。お申込みくだされば送ります。その際には、実費として1月350円(4200円/年)をいただいておりますのでご了承ください。

<振込先> 三井住友銀行「神田支店」 (普通) 7871532
(口座名) テンチシニアネットワーク

<配信・郵送、不要の場合はご一報ください、中止いたします。>

- 天地シニアネットワーク・テーブル・448号
- 発行：2017年5月15日
- : 天地シニアネットワーク事務局 (津田 孚人)

〒110-0016 台東区台東2-21-9 双葉ビル2F202号室
TEL・FAX 03-3837-0290
E-Mail tenti@mvc.biglobe.ne.jp